

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース
- 3面 読者のページ/まんが/乱楽
- 4・5面 「改正DV防止法」何が変わったのか/女性 働く/ホットライン
- 6面 食事情/子育て相談/時事クローズアップ
- 7面 新婦人のページ/主張/母の歴史



札幌市 稲田友子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

能登半島地震

被災地からレポート

(1月12日現在)

最大震度7を観測した能登半島。石川県は死者が215人、災害関連死は14人(12日)となり、新潟、富山を含めて、日を迫るごとに被害が拡大しています。厳寒の被災地、過酷な避難生活の中で被災した人たちの健康が危ぶまれるなか、政府の責任が問われています。新婦人石川県本部(1面)と、富山、新潟県本部(2面)からのレポートを紹介します。

「寒い！」
「眠れない！」
「早く救援、復興支援を！」



いしかわ総合スポーツセンターに設置された一時避難所に避難してきた家族。9日、金沢市(提供:時事)



震源地(1日午後4時10分ごろ)
輪島市、志賀町、羽咋市、石川県、富山県、富山市、金沢市

自宅に戻っても

1月1日に起こった地震から11日たちました。輪島、七尾など確認できた範囲では、会員・読者だけがや亡くなった方はいません。しかし、多くの人は自宅が住める状態ではなく、今も避難所生活を強いられています。加賀、

石川

断水つづく 過酷な避難生活

県本部事務局長 後藤祐子

県本部は支部とラインでつながり、会員・読者の安否など情報を集めるとともに県ニュースで知らせています。

小松、白山、金沢から「壁が落ちた」「塀が倒れた」「道路の隆起」などと報告されました。内灘町の西荒屋では液状化現象とみられる被害が多発し、会員宅前の道路に大きな亀裂が入り断水が続いています。また、珠洲の読者が倒壊した家屋の柱の下敷きになり、命に別状はないものの入院しました。道路もひび割れ、建物も倒壊し、移動も大変です。

厳寒の避難所

避難所は「物資不足」「寒い」「眠れない」など

救援募金にご協力を

【送り先】

郵便振替 00150-7-74582
新日本婦人の会 ※「能登半島地震救援募金」と明記。会員、読者の救援は「救援基金」と明記を。

余震で続く揺れ

元旦の地震から、余震で地面が揺れ続けていて、また家が崩れるのではないかと不安がよぎるし、鳴り続ける雷や突風で、よく眠れない夜が続いています。

1日は七尾市内の自宅にいて被災し、近所の中



9日、緊急に行った石川県本部の救援募金宣伝。各班から17人が参加。観光客がまばらな中、通行する人たちが次つぎ、支援の思いを寄せてくれた

避難所に戻る人もいます。親戚や娘、息子を頼り、金沢に自主避難された人も大勢います。こうした避難所の多くが小中高校のため、12日まで臨時休校となり再開のめどが立っています。

能登の道路は復旧に苦勞しています。七尾のコンクリート会社が地震で稼働できなくなり、補修の見通しが立ちません。七尾までの水道管は県の管轄で補修が進められて

雨水をためて生活用水に

石川・七尾支部中島班 葛西晴子

島小学校の体育館へ家族で避難しました。避難所



漬物樽に雨水をためて、自宅横の道路は亀裂が(葛西さん提供)

に行つて驚いたのは、びっくりするくらい何も備蓄がないこと。支援物資が届くまでは、みんなお正月のおせちを持ち込んで食べたり、自宅から布団を運んで寝起きしてだんだんにちの感覚がなくなっていました。プライベートもなく、みんなストレスでピリピリしていました。(2面へ)

